

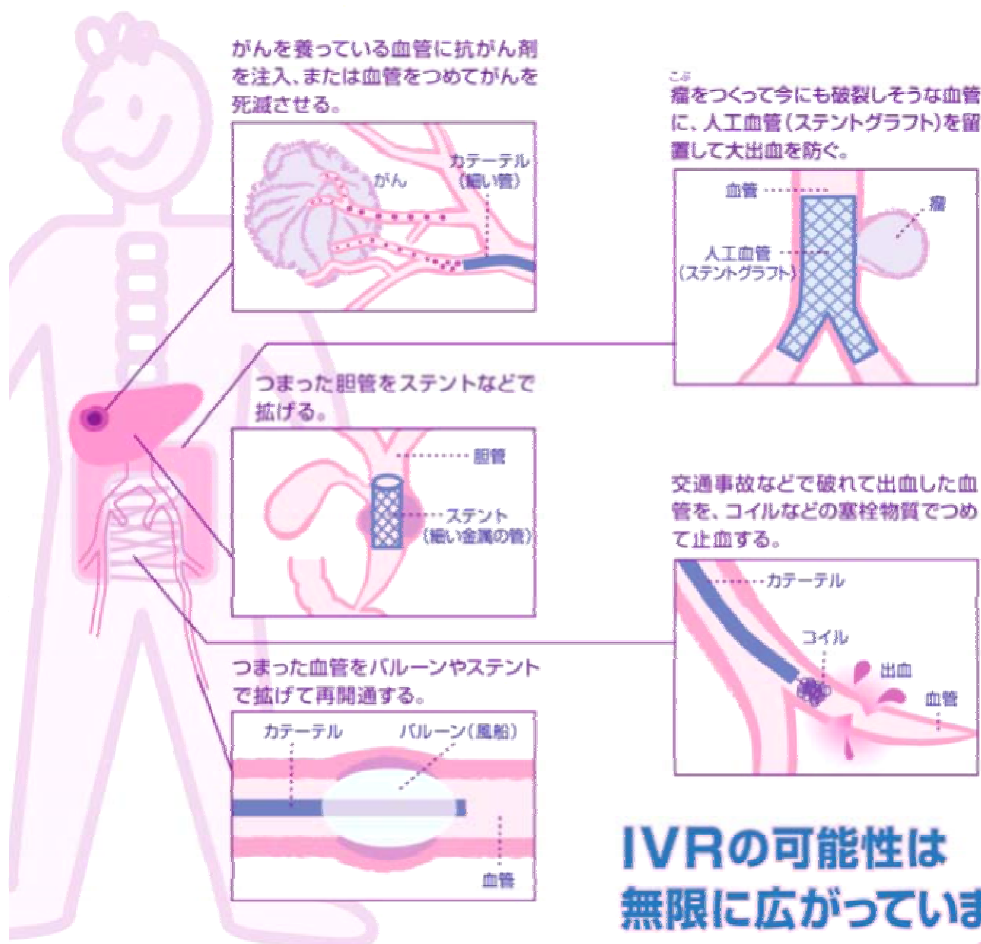
IVR(インターベンショナルラジオロジー編)

放射線科 馬場健吉

はじめに：

“IVR(アイ・ブイ・アール)”って何？

インターベンショナルラジオロジーの略で、レントゲン(X線)透視像や血管造影像、エコー像、CT像などの画像を見ながら、カテーテルと呼ばれる細い管や針を用いて、外科手術なしで、できる限り体に傷を残さずに検査したり、病気を治療したりする方法です。



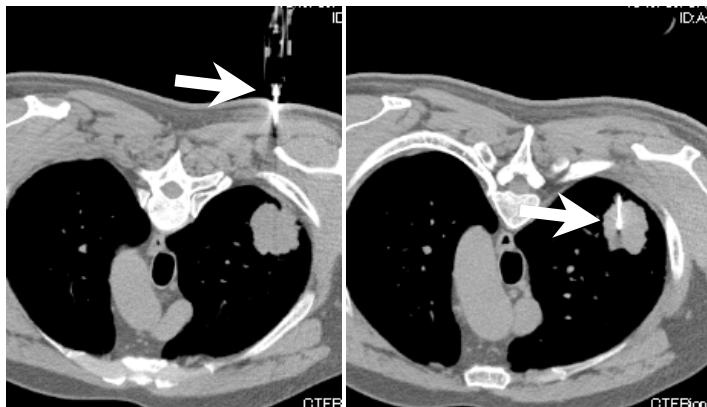
**IVRの可能性は
無限に広がっています。**

(IVR学会ホームページより)

肺癌の診断のためのCT下針生検：

「生検」とは腫瘍などの組織の一部を採って、顕微鏡で調べる検査で腫瘍(癌など)を診断する上で最も重要な検査です。胃や大腸の腫瘍については簡単に内視鏡検査で生検できますが、肺は気管支鏡検査を行うのが通常です。しかし、肺の末梢の病気であれば内視鏡検査で腫瘍までたどり着きにくく、また、何度も生検することで、検査による肺損傷の危険性も高くなります。

そこで、肺の末梢の腫瘍に対してはCTガイド下で経皮的に生検する方法が行われるようになりました。この方法により、気胸の危険性はあるようですが、比較的容易に局所麻酔のみで、組織を採取できるようになりました。

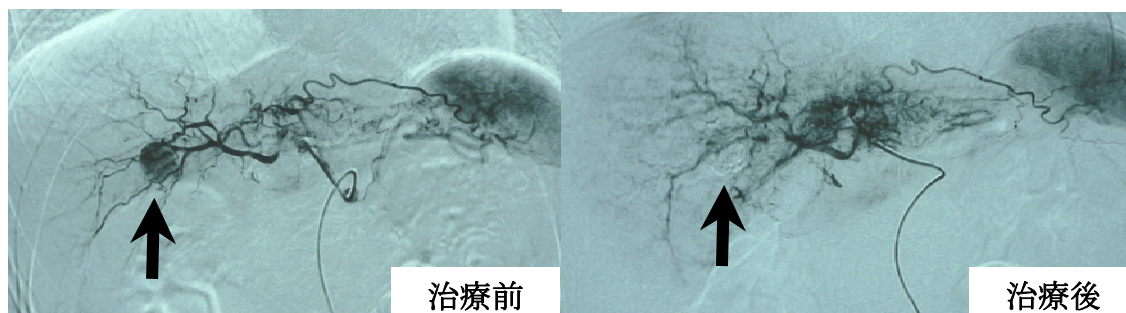


右肺に背側から生検針が挿入されています。(組織は肺癌)

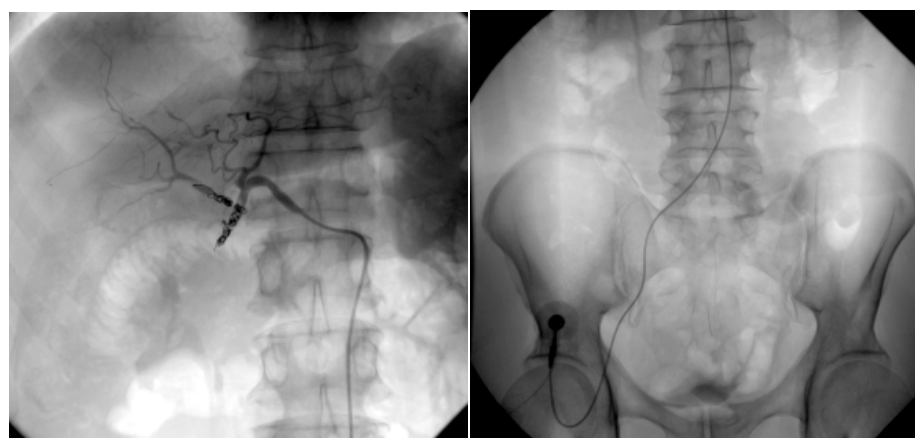
肝臓癌の治療：

肝臓癌の治療では、手術療法のほかに、血管造影による肝動脈塞栓術や肝動注療法(肝動脈への抗癌剤の注入)があります。

動脈塞栓術ではまず、右足の付け根付近の動脈から穿刺し、特殊な管(カテーテル)を挿入し、肝動脈を造影します。肝臓癌は肝動脈で栄養されていますので、血管造影でよく描出されます。そこに、さらに細かいカテーテル(径1mm程度)を挿入して、癌の部分の肝動脈を薬剤で閉塞させます。



また、肝動脈内に何度でも抗癌剤を注入できるシステムの増設も行われています。



肝動脈内リザーバー増設(右足の付け根の動脈から増設しています。)

最後に：

当院ではこのほかにもさまざまな IVR 検査を行っています。詳しくは放射線科外来または主治医の先生にご相談ください。